

ボラセンだより

令和3年度 Vol.1

もくじ

【表紙】

- 災害ボランティアの心構え
- 活動するための手順

【中面】

- ボランティア団体紹介
- * 対面朗読ボランティア
ひばり
- * 声の広報ボランティア
日の里テープの会
- * 点訳ボランティア
てんとうむし
- 個人ボランティア紹介
- * 今村 阿紗子さん

【裏表紙】

- 車いす移送車について
~利用者の声~
- ボランティアセンターからの
お知らせ
- * V-net 登録済みの皆さんへ
- * タオル寄付のお願い
- * 発行者
- * メイトム位置図

災害ボランティアの心構え

災害が発生した場合、災害ボランティアによる被災者の日常生活を支援する活動は、被災地を支える大きな力を発揮します。

ボランティア本人の自発的な意思と責任により被災地での活動に参加することが基本です。

1. 自分のことは自分で守る
2. 被災者の立場に立った行動をする
3. 自分で考えて行動しよう
4. 集団行動及びルールを守る
5. 断る勇気を持つ
6. 思い込みをなくす
7. 地域住民の自立を支援する



活動するための手順

1. 正確な情報を事前に入手
現地の状況は刻々とかわるので、必ず最新の状況を確認してください。
2. 行き先の決定
災害ボランティアの募集状況や交通手段を調べたうえで行き先を決めます。
3. 出かける準備
住まいの近くの社会福祉協議会又は、現地の災害VCでボランティア活動保険に入ります。身の回りのものについては、事前にボランティア自身が用意します。
4. 現地到着
現地に着いたら個人で行動せずに、災害VCを訪ねて受付をしてください。
5. 食事・宿泊所について
災害VCでは食事・宿泊所は用意されていません。自分自身で手配するようにしてください。

※災害VC = (災害ボランティアセンター)
参考 福岡県社会福祉協議会ホームページ



宗像市ボランティアセンターは、高齢者や障がいのある人などの日常生活を支援することを目的に、車いすのまま乗車する「車いす移送車」を貸し出しています。

今回、ある利用者のご家族から、この車両が役に立っているという声が届きましたのでご紹介します。

車いす移送車のことは宗像市のホームページをみて知りました。

移送車を利用することによって、外出することに遠慮気味だった母が今では、外出することを楽しみにしています。月一回の通院も車いすごと車に乗せられるので、介助が楽になりました。

また、病院帰りに買い物をする時、以前は母を車の中で待たせていましたが、今は乗り降りが楽なので、一緒に買い物に行くことも多く、母にとって気分転換になっています。「今日は楽しかった。」の一言がうれしいです。

はなだ ひろこ
利用者家族 花田 寛子さん



トヨタ・ノア (AT車スロープ式)
車いす2台+定員3人



※利用条件については当センターにお問い合わせください。

ボランティアセンターからのお知らせ

V-net 登録済みの皆さんへ

V-net の登録内容に変更はありませんか？
変更のある場合は、速やかに当センターまで知らせてください。活動紹介や活動報告写真などホームページ、Facebook、掲出版に掲載することもできますので、こちらもぜひ活用してください。

新しいタオル古いタオル

ゆずってください

子ども向けの講座に使用します

バスタオル、フェイスタオルなど

ボランティアセンターで受け付けてます

よろしくお祈いします！

MAP



【ボラセンだより令和3年度 Vol.1 令和3年10月1日発行】

(福) 宗像市社会福祉協議会 宗像市ボランティアセンター

〒811-3437 宗像市久原180メイトム宗像1階

Tel 0940(37)4100

Fax 0940(37)4101

E-mail v-net@syakyo.munakata.com

ホームページ

<https://syakyo.munakata.com/volunteer/>

ボランティアセンター
ホームページQRコード



ボランティア団体紹介

団体・個人ボランティアに関する
問い合わせは、宗像市ボランティア
センターへ TEL0940-37-4100

対面朗読ボランティア ひばり



2人で交互に朗読を
しています

対面朗読ボランティアひばりは発足して23年です。

「声の応援団」として誰かの力になりたいという気持ちが、活動の原動力になっており、視覚に障がいのある人に、自宅や公共施設で本や小説などを朗読しています。

哲学書など様々なジャンルの本を朗読することは、色々な読み方の漢字を知り、自分自身の引き出しが増えて心の財産が沢山できました。

現在は、コロナ禍なので利用者の人と携帯電話を使用して対面朗読の活動をしています。

これからも長く活動を続けていきたいので、リスナーの人が一人でも増えたらうれしいです。

代表 ^{やまと}大和 ひろみさん

声の広報ボランティア 日の里テープの会

日の里テープの会は発足して36年です。

視覚に障がいのある人に「むなかたタウンプレス」の記事を読み上げ、テープやCDに吹き込む音訳ボランティアをしています。

コロナ禍なので、メンバー全員と一緒に活動できない状況ですが、無理はしないでみんなで助け合いながら活動をしています。また音訳の時は内容が正しく伝わるように、発音やアクセント、間の取り方に気をつけています。

今後は一人でも多くのリスナーの人に宗像市の様々な情報を分かりやすく、伝えたいです。

しみず ゆうこ
清水 優子さん



集中して音訳をしています



パソコンが主流で作業をしています

個人ボランティア紹介

ボランティアさんにきっかけなどをインタビュー

いまむら あさこ
今村 阿紗子さん



ボランティアをはじめようと思ったきっかけは、何か役に立てることはないかなと思ったことです。

自分自身や家族のために始めた体のケア（ヒーリングタッチ）の勉強でしたが、自分自身や身近な人たちが元気になれたことで、他の人たちにも役に立つのではないかな…と考えたことがきっかけです。

今はコロナ禍なので、ボランティア活動はままならない状態ですが、今後はボランティア活動を通して、色々な人と心があたたかくなれるような繋がりを持ってたら良いなと思います。そして楽しく活動をしていきたいです。



点訳ボランティア てんとうむし

昭和60年、宗像市福祉ボランティア活動連絡協議会結成と同時に、点字講習会受講者有志で「てんとうむし」も結成、ボラ連に入会しました。視覚障がい者と「共に学び、共に生きる」と「不便を便利に」をモットーとして活動中です。

使用点字器も点字盤、タイプライター、そして今では、パソコン・点字プリンターが主になりました。「ぶつぶつ」と点筆で打っていた時代と比べると、短時間に同じものを打ち出すことができます。

障がい者支援センターの「すまいる」、ボランティアセンターの「ボラセンだより」、市議会議員候補者名簿など公的な文書の点訳、時刻表・メニュー・歌詞カード・本・等々、個人依頼の点訳をしてきました。福祉教育授業、点字体験講座の講師もしています。

視覚障がい者も含め、和やかな雰囲気・マイペースで、勉強、活動しています。日常生活に必要な点字を皆さんと共に考えていきたいと思っています。

ぜひ、ご意見をお聞かせください。

いしづ あさこ
代表 石津 朝子さん